

# 平成24年度海外派遣研修

## 引率を終えて思うこと

農学科2年生83名が、平成25年1月26日から2月2日までの7日間の海外派遣研修を実施しました。研修先は、昨年同様オーストラリアのシドニー市及びその北西に位置する約60km北西に位置するファームステイファミリーがあるホークスベリー地域でした。

早朝の中部国際空港に全員集合し、予定どおりシドニーに向けて出発。順調な滑り出しとなりましたが、ほぼ九一日に及ぶ



ホストファミリーとの対面式

長い航路のため、途中で3名が体調を崩してしまいました。発熱がある学生もいて、経由地のシンガポール空港内の診療所で医師の診断を受けました。熱が高くインフルエンザであれば、乗り継ぎ機への搭乗が出来なく、心配しましたが、そこまでではないとの診断で、シドニーに予定どおり到着。その後、幸いにして3名とも体調が回復しました。無事研修を続けることができて、本当に良かったと思います。

2日目の朝、シドニー到着後、貸し切りバス2台に分乗し、市内を視察（オペラハウス等）。長時間の飛行機移動で疲れはあったものの、学生たちは、日本と正反対の真夏の気候や環境の違いに驚いていました。その日の午後には、シドニーからホークスベリーに移動し、そこでホストファミリーとの対面式を行いました。副校長・吉川学生会



リンゴ農家でのファームステイ

うとしていました。電子辞書・携帯の翻訳機能を使い、会話しようとする学生もあり、積極的にホスト農家とのコミュニケーションに取り組んでいました。短い期間でしたが、学生達は、食生活や文化、国民性などの違いをしっかりと感じとったようで、充実したファームステイとなりました。

長、ホストファミリー代表のあいさつの後、3〜4人グループに分かれ、各ホストファミリー宅（25戸）に自家用車で移動、3泊4日のファームステイがスタートしました。

全てのホストファミリーは大規模な農家経営ばかりでなく、兼業農家や現役をリタイヤした後に楽しんで農作業を行っているところもあって、そうした農家では、他の大きなホスト農家へ学生が通って体験実習を行いました。学生たちは、農作業やホームステイを通じて、オーストラリア生活を肌で感じ、オーストラリアにおける農業に取り組む考え方を熱心に吸収しよ

えることもあり、とても有意義な視察となりました。最終日は、自由行動とし、シドニー市内を散策しました。帰路は、再度、シドニー国際空港からシンガポールを経由、往路同様、体調を崩す学生がいましたが、無事、全員が中部国際空港に帰ることができました。

この海外体験により、国際的な感覚が養われ、広い視野をもって、日本農業を見つめ直すことができて、それぞれの学生にとって、貴重な経験となったものと思います。

2日目からは農業関連視察で、専攻別に2台のバスに分乗し、1号車はリンゴ園と鉢花生産施設、2号車はアングラス牛の肥育農家と水耕野菜の大規模農場を視察しました。その翌日は、早朝からフレミントン卸売市場を見学、日本では見かけない産物も多く見ることができました。そのあと、留学生を受け入れている野菜栽培の教育施設やワイナリーを見学しました。学生たちは、日本と異なったオーストラリア農業の方法などを熱心に見聞きしながら、飼育方法や栽培方法、農業に対する考え方が日本と違い多く活発で、予定時間を超



野菜農家でのファームステイ